

発行：はつらつ編集局
 発行日：平成 25 年 6 月 1 日
 発行人：吉田 秀明
 編集人：はつらつ編集委員
 お問い合わせ：0135-23-3126



皆さん こんにちは

当病院では、平成 25 年 3 月より北後志管内では初めてとなる「回復期リハビリテーション病棟」を開設しました。今回は、その回復期リハビリテーション病棟の紹介をします。

スタッフは、医師 1 名、看護師 8 名、介護福祉士 4 名、補助者 4 名、理学療法士 (PT) 2 名、作業療法士 (OT) 1 名の総勢 20 名でスタートしました。

「回復期リハビリテーション」とは、病気やけがをされた患者様が日常生活を送れるように、在宅復帰することを目的としてリハビリを集中的に行うことです。

他の病棟と違うところは、専門的な知識と技術を持って、心身の状況に合わせた生活面の介護を行う「介護福祉士」がいることです。

患者様は、日常生活そのものがリハビリなので、毎日忙しく生活しています。

1 日の流れ

6 時 起床、着替え、モーニングケア
 8 時 朝食、歯磨き
 9 時 ラジオ体操、コーヒータイム、アソビリテーション
 12 時 昼食
 14 時 アソビリテーション
 18 時 夕食
 20 時 イブニングケア、着替え
 21 時 消灯

※コーヒータイムにはコーヒー豆を挽きながら、指、手の運動を行っています。

※アソビリテーションとはぬり絵、はり絵、折り紙、おはじき遊び、ボール遊びや計算などの脳トレーニングを行うことです。

1 人 1 人の患者様に多職種、多方面から関わっていきます。

そして、退院調整、試験外泊、週 2 回のカンファレンスなどで自宅退院に向けての目標を設定し、具体的な ADL 向上のためにリハビリの情報と技術の共有に努めています。

いたらぬ点はまだまだありますが、患者様が 1 日も早く在宅復帰できますよう、スタッフ一同これからも明るく笑顔で頑張っていきたいと思います。

研修医リレーコラム55 「蜂に刺されたら？」

皆さんは蜂に刺されたことがありますか？私自身はありませんが、私の祖父が蜂に刺されて危うく命を落としかけたことがあります。「蜂はコワイ」と誰もが知ってはいますが、刺された場合一体どのようなことが体に起こるのでしょうか。今回は蜂刺傷についてお話しさせていただきます。

まず、刺す蜂の中で怖いのはスズメバチとアシナガバチで、毎年 7～10 月ごろが危険のピークとなります。厚生労働省の統計によると、毎年 15～20 人が蜂刺傷により命を落としており、死亡事故のほとんどが山村やその周辺で起きています。蜂自体が山村に多く生息するためもありますが、速やかに医療機関で治療を受けることができずに手遅れとなっている場合も多いと思われます。蜂刺傷による症状は、蜂の種類やこれまでに刺された回数などによって異なりますが、大きく局所症状（皮膚症状）と全身症状の 2 つに分けられます。

局所症状は、蜂毒による直接作用により、刺された部位に直ちに痛みや腫れ、痒みを生じます。初回は刺された場所（刺咬部）に小さな発赤を生じるのみですが、2 回目以降は刺咬部の発赤と腫脹が徐々に拡大し、2～3 日をピークとして 1 週間ほど続くことがあります。これは蜂毒に対する遅延型反応と考えられています。蜂に刺されてから 1 時間以上経っても上記のような局所症状を認めるのみであれば、後述するアナフィラキシーを呈する可能性は少ないと言われており、特にその時点での治療の必要はありません。

一方、問題となるのは全身症状です。全身症状にも刺された直後に生じる症状（即時型）と、数日遅れてから現れる症状がありますが、ここでは即時型の症状についてお話しします。「蜂刺されは 2 回目以降が怖い」と聞いたことがあるかもしれません。1 度蜂に刺されると、体内で毒に対する抗体 (IgE) が作られ、肥満細胞と結合し「感作」が成立します（簡単に言うと体が毒を「覚えます」）。そして 2 回目以降蜂に刺されると、抗体が蜂毒と結合し、肥満細胞が活性化され、ヒスタミンやロイコトリエンといった化学伝達物質が体内に放出され、血管拡張や血管透過性の亢進を引き起こして以下に述べるような全身症状を呈します（毒に対して体が過剰な反応を示してしまう訳です）。症状は刺されたあと数分～十数分以内に出現し、じんましん（刺された部位以外の皮膚症状）、舌やのどの腫れによる呼吸困難、動悸、悪心・嘔吐、下痢、腹痛、痙攣やめまい、そして失神などを生じます。このような症状をアナフィラキシーといいます。アナフィラキシーの中でも死亡原因の一位はのどの腫れによる窒息死です。全身症状が現れた場合は直ちに医療機関に搬送し、治療を受ける必要があります。刺傷後 30 分以内にアドレナリンを投与すれば死亡者が認められなかったという報告もあり、迅速な対応が重要です。また、まれではありますが初回の蜂刺され（特に多数匹に刺された場合）でもアナフィラキシー様の反応を呈することがあり、初回だからといって全身症状が出た場合は直ちに医療機関を受診しましょう。一般的に、以前の蜂刺傷で何らかの全身症状を呈した場合、50～60%の確率で前回よりも重症化するといわれています。また、局所反応でも腫脹が広範囲に数日間持続した場合、再刺傷時に全身症状を起こす危険性が高いといわれています。このような場合、再刺傷時の緊急対策としてエピペン®という薬剤（簡単に使用可能なアドレナリン製剤）があり、医師の処方を受けることができます。詳しい使用方法は割愛しますが、蜂に接する機会が多い人は覚えておいていただきたいと思います。

長くなりましたが、何より一番有用なことは、蜂を怒らせないことですけどね。

北海道大学病院研修医 牧田啓史

看護の日フェア

◆日 時：6月29日（土）
 13:00～15:00

◆場 所：余市イオン（南側玄関前）

◆内 容：血圧測定、骨密度測定、
 血糖測定、肩こり体操、
 心臓マッサージ実演、
 栄養相談、進路指導など

みんなで
 健康チェック！



余市協会病院



救急件数

外来受診292件

うち入院35件

(5月)

救急車来院65件

うち入院25件